

平成 30 (2018) 年 11 月 3 日 中国新聞

3回目見積書で経費除外

二葉山トンネル工事増額見通し

公社の精査解明必要

広島高速5号二葉山トンネル（広島市東区、1・8キロ）の事業費が膨らむ見通しとなった問題で、受注した共同企業体（JV）が、事業主体の広島高速道路公社（東区）に見積書を3回提出していたことが、分かった。JVは3回目で見積書を提出したが、完成に欠かせないトンネル内壁などの事業費を除いた。なぜ3回目で見積書を提出したのか、経緯や責任の所在を明らかにする上で重要なポイントとなりそうだ。

（樋口浩一）

二葉山トンネルの工事契約を巡る経緯		
広島高速道路公社	時期	大林組などの共同企業体（JV）
シールドトンネル工事を公告	2015年11月	
JVの応募を受理。応募は1者だけ	12月	公告に応募
	2016年2月	1回目の見積書を添えて技術提案
	4月11日	2回目の見積書を添えて技術提案
	4月22日	3回目の見積書を添えて技術提案。初めてトンネル内壁など6項目の経費を除いた
入札を実施。応募はJV1者だけ	5月23日	工事を落札
	17年2月	事業費の増額を要請
	18年4月	2回目の増額要請
	6月	3回目の増額要請
4回目の増額要請を受けて、広島県、広島市との協議を開始	7月	4回目の増額要請
増額の協議を始めると決定	8月	
経緯を公表	10月26日	

公社は契約締結に向けた事前協議の過程で、工事の内容を当初からJVに示していた。当初の見積書はその内容に沿っていたと判明したことで、JVが3回目になって変えた理由の説明が待たれる。公社はJVが一部の経費を除いた理由について「受注するために事業費を抑えたかったのでは

ないか」との見方を示している。

JVの代表企業の大林組（東京）は修正理由について「個別の案件にはコメントできない」としている。問題が発覚したのは、トンネル西側の二葉の里地区から1・4キロを、地盤沈下を最小限に抑えることされる「シールド工法」で掘る工事。大林組と大成建設（東京）、広成建設（東区）の3者でつくるJVは、2016年2月22日▽同4月11日▽同4月22日の3回、見積書を提出した。いずれも、詳細な工法などを記した技術提案に添えていたという。

公社によると、当初の2回目の見積書は、公社が定めた工事の内容に沿った内容だった。ところが3回目では、トンネルの完成に欠かせないコンクリート製の内壁の設置や電気代など6項目の経費を除くとする記

クリック

広島高速5号 広島市東区JR広島駅北口と広島高速1号温品ジャンクション（JCT）を結ぶ全長4・0キロ。総事業費は112億4千万円。二葉山トンネルはこのうち東区二葉の里、中山間地区を結ぶ1・8キロを

載が新たに盛り込まれた。公社はこれまで、見積書で一部の経費が除かれたことについて「担当者は把握していた」と説明する。一方で当時、記載を変えた理由をJVに確認したかどうかは「今後調べる」とする注した。

入札3分の1で不調

中国整備局道旧工事 豪雨被害が広範

西日本豪雨に伴い中国地方整備局が公告した広島、岡山両県での災害復旧工事21件のうち、3分の1の7件で、受注希望の業者が集まらず、入札不調に終わっていたことが2日、分かった。被害が広範囲にわたるため、手が回らない現状があるとみられ、建設業界の人手不足も背景に復旧の遅れへの懸念が強まっている。

整備局は2日までに、国管理の道路や河川などの災害復旧工事として中国地方の5県で計34件の入札を公告。うち広島県は16件、岡山県は3件で、それぞれ6件、1件が不調に終わった。3分の1の入札不調は通常よりかなり多いという。

山口県の公告は4件。うち1件はいったん不調に終わったが、別の業者が入札した。柳井市と山口県周防大島町を結ぶ大島大橋に貨物船が

財政支援求め緊急要望書

周防大島衝突 村岡知事ら国交相に



た。公社は技術提案を踏まえ、受注額の上限を200億円の範囲内で設定し、16年5月に入札を実施。JV1者だけが応募し、199億9999万8000円で受注した。